

外来での血液検査

子供の場合、成人と違い、外来で血液検査をする機会はそれほど多くありません。それは乳幼児では採血することが容易でないこともあります。一つには健康診断（スクリーニング）として血液検査をする機会が少ないこと、もう一つは「病気の種類」が成人とは異なっているということもあります。

成人の場合には慢性の病気（慢性肝炎、慢性腎炎、糖尿病、脂質異常症、高血圧など）が多く、定期的に血液検査をする必要が多いのに比べ、子供では急性の感染症（カゼや急性気管支炎、急性肺炎、感染性胃腸炎、尿路感染症など）がほとんどです。

そのため、外来で行う血液検査の多くは、**急性の感染症の種類や程度を知るために、あるいは他の病気との鑑別をするために、通常下記の①②を行います。**たとえば発熱が長く続いたり、特殊な症状が出たりして診断のつけにくい場合や、肺炎などの種類や程度を知る時などに行います。川崎病、細菌性髄膜炎、菌血症(体の中に細菌が入り込む病気)、悪性腫瘍(白血病など)などの病気では①②で強い反応を認めます。

①血液一般（白血球数・赤血球数・ヘモグロビン・白血球の種類など）

感染症があると白血球が増加あるいは減少します。正常は5000～10000程度です。白血球の種類によりウイルス性か細菌性かの鑑別が可能です。また、貧血の有無も調べます。

②CRP定量

体の中の炎症の程度を調べるものです。正常は0ですが、炎症が強くなるほど数値が高くなります。

上記の①②については、当院では「自動血球数CRP測定装置」を使用して診療所内で5分程度で判定をしています。

③肝機能検査あるいは腎機能検査

種々の感染症、急性肝炎、特殊な病気などの時に肝機能が異常となります。また、まれですが腎機能の異常が見られることもあります。

④アレルギー検査

アレルギー体質があるかどうか、何に対してアレルギーがあるかを調べます。現在は皮膚の検査はあまり行われず、血液検査が主流となっています。ダニ、卵、牛乳、小麦、大豆、スギなど細かくアレルゲン（アレルギーの原因）が調べられます。一部の抗原については、約20分で結果が出る迅速診断キットもあります。

⑤ウイルス抗体価など

麻疹、風疹、ムンプス（おたふくかぜ）、水痘、帯状疱疹などは普通、症状だけで診断できるものですが、中には診断の難しい症例もあります。また、特殊なウイルスの病気もあります。その場合には、ウイルスの抗体を検査して診断します。ただし1回だけでは分からないことも多く、2回以上検査することもあります。肺炎の原因となるマイコプラズマの抗体では、約20分で結果が出る迅速診断キットもあります。